

都市デザイン研究室 2008年を振り返る

先生方の語る、2008年

西村幸夫教授 「今年思い出に残ったもろもろのこと」



心に残る都市：やはりしばらく滞在した都市が思い出に残っています。海外では、イコモスの総会があったケベック、研究室旅行でいったマラッカなど。

心に残る道：カザフスタンの旧首都アルマーティから隣国キルギスの首都ビシュケクまでタクシーで600キロの行程を走ったときの草原の風景。南に4000から5000メートル級の山脈がつづいたところをおそろしい勢いで走り抜けます。中央アジアの国の歴史保全の助っ人も頼まれています。今回が最初ではないのですが、いつも印象的です。

心に残る出会い：小樽で峯山富美さんの建築学会文化賞のお祝いの席で再会できたこと。94歳の今もなお、まちへの想いがあふれている姿に感動しました。

心に残る言葉：「悲観は気分である。楽観は意志である。」 誰かの言葉の引用だと思いますが、オリジナルの出所は忘れませんでした。

心に残る出来事：研究室旅行でマレーシアの諸都市に研究室のメンバーと行ったことです。特に再会したマラッカ市長から歓待を受けたこと、マラッカのタワーが(おそらく外圧としての私の強い主張で)700メートルばかり移動して建設され、もとの計画地にはポルトガル時代の城砦の一部が復元され始めていたのを知ったのは、うれしい驚きでした。

心に残る本：残念ながら今年は心底感動するような本に巡り会いませんでした。

今年達成したこと：著書が単著、編著、監修書、共著などもろもろふくめて100冊を超えたことでしょうか。日々の積み重ねなので、とくに感慨はありませんが、現場に出ることが多いのであまり時間がないなかで継続できたことは、多少は誇らしく思ってもいいのかもしれません。

北沢猛教授 「本郷、柏のみなさんへ」

1年間、皆さんにはそれぞれにいい成果があったと思います。それを聞くことを楽しみにしております。

2008年は世の中も激動しましたが、わたしの身のみのまわりにも大きな変化がありました。家族や友人にも含めて多難多幸な年となり、まさに生きているということの実感がありました。生きるということは楽しいことです。

さて、2年前より始めた地域の計画デザインの場づくりに関する研究と実験にも進展がありました。UDC+シリーズも、UDCKが柏という首都圏周辺地域・中核都市で公民学連携型のデザイン組織としてスタートして、今年の4月にはUDCYが横浜、大都市地域にて、個人のネットワーク型シンクタンクとして、さらに8月にはUDCTが田村という地方中小都市の地域密着型デザイン組織として、12月にはUDCKoが郡山、地方中核都市において、地元町内会と地場の企業との連携型のNPO法人として設立されました。まだ、それぞれは試行錯誤の

段階ではありますが、研究室の皆さんの力をもとに、地域の力、行政や企業の力をいかに効果的にくみ合わせるか、方向が見えてきたと思います。多くの方に賛同、参画をいただけたことに感謝するだけです。来年には、内外のUDC関連の組織や場の動きを研究したいと考えています。

また、東京大学21世紀COE:都市空間の持続的再生学の創出の一環として取り組んできた京浜臨海部再生(ブラウンフィールド問題)において提案してきた複数シナリオ型プランニング(多層的計画論)を実際に適用する機会を得ることができました。「海都横浜構想2059」(仮称)と名付けた横浜の内港地域3000haの再編のためのアーバンデザインです。今年は枠組みの整理を行いました。次年度は、横浜市、そして横浜国立大学+YGSA、横浜市立大学、UDCYと共同し、次世代にむけたプランニングやアーバンデザインを研究したいと考えています。来年も皆さんと一緒に知恵を絞っていききたいと思っています。



窪田亜矢准教授 「2008年に会った言葉たち」

「先生のところミシンありましたっけ？」

佐原で歴史的建造物の活用を目的とした実験店舗事業「ぐるぎ+」。その開店準備時に、のれんの製作を担当した学生のKAさんが二階の部屋にやってきたときの一言。特に準備段階は暗中模索が続いたが、そんな状況においても参加メンバーの面々の手を抜かない姿勢を頼もしく感じつつ、都市デザインの領域の広さをどう捉えれば良いのか、しばし考え込む。

「まあ大きな家族みたいなものですから」

重要文化的景観に選定された小鹿田焼の里を訪れる機会があった。近世より長男が継承してきた窯元が十程度集まっている小さな山間の集落。土を砕く唐臼の音はのどかだし、地形を活かした窯業によって形成されている風景は、明確で美しい。しかし人間関係などの点で閉塞感が強烈すぎやしないのか、道ばたで生け垣の手入れをする女性に思わず尋ねてみた。自分の価値観では想像できない感情があることを改めて実感する。

「This is a small present for you」

研究室マレーシア旅行でお世話になったマレーシア工科大学のメンバーが、帰り際に私たちひとりひとりに用意してくれた小さな指輪。人に物を贈るという習慣をあまり持っていなかったが、これからは贈り魔になったりして。圧倒的な暖かい心遣いに感謝と敬服。

「ばらばら事件が起こっているんです」

車のまちづくり研究会にて、松居秀子さんが車の浦のこれまでの都市計画を訴えた言葉。都市は個別の空間が併置されてきているのではなく、日々の生活が一連の場所をつなげるときに立ち現れるのだ。現場と接点をもって学問の成果をフィードバックすべき、と語った松岡みゆきさんの言葉も、別のばらばら事件を指摘している。

不惑を迎えた2008年。来年は主体的に惑っていたい。

中島直人助教 「都市」の話になる迄の断章その一

今年も浅草・公園通りでは幾度も飲んだ。大抵は、観音うらでまちの人たちに勇気づけられて、気持ちが大きくなった後のことだ。浅草公園の盛り場の遺伝子がかろうじて残っているように思われる青空酒場で、よく知っている人たちや、まったく知らない人たちと、他愛のない、しかし結構熱い会話を交わす。足下のアスファルト、ホッピーとモツ煮込みが並ぶ狭い机、ぼかんと何にもない空、でもそこに古き瓢箪池の幻影を見ていたのは僕だけではない。それぞれのせつなさを、つたないながらも何とか共有しようとする。あからさまでないから、酔い、良い。そして、気持ちよく酔った後は、蔵前まで一人で歩く。蔵前では時刻表を見なくても、少し待てば、都営の2番が来ることを知っている。僕は都営バスから見る東京のまちが好きだ。御徒町や本郷三丁目の見慣れた風景をバス座席特有の少し高め、でも高すぎないあの視線で眼差しながら、自分のことなのか、都市のことなのか判然としないことを考える時間。20分強で大塚仲町の自宅前のバス停に辿り着く。ここで、我が家やそのまわりの家の灯りでふと我に返り、先ほどの公園通りでの無責任な会話を反芻して、恥ずかしさに赤面(酔っても顔色は変わらないのに!)。家のベルを鳴らす頃には、後悔一色。こうやって、人生の貴重な時間が、都市に吸い取られていく。僕はそれに抗うことはできないし、実は抗おうとも思っていない。古典的な物言いで恐縮だが、そうしたものに身を任せて、寄り添うことが、憧れた都市を理解していく一番丁寧な方法であると信じている。2008年の私的素描。(注記:これは仕事が捌けたあとのお話です。)

野原卓助教 「季刊ふりかえり2008」

あまりにも早く過ぎゆく2008年を手帳から振り返ってみることにします。

1-3月:「新宿景観まちづくりガイドブック」に、「喜多方まちづくりブック」、そして、京浜臨海部研究まとめ。どうやら、本ばかりつくっていたらしい。さながら編プロだが、研究や提案の成果を自己満足に終わらせずに伝えゆくためには、まとめも重要か。

4-6月:窪田先生カムバック。修論と格闘中の私を横目に、博士論文に邁進中の窪田先生が発表する研究室会議に圧倒されていた、あの頃。中身は半分も理解していなかったかもしれないが(すみません...),最先端の研究を肌で感じる空気が今でも貴重な体験。

7-10月:人生初のマレーシア。タンカー渋滞のマラッカ海峡に、プランテーション畑から4kmも続くヴィスタの新都市ブトラジャヤまで。しかし、チリさん(マレーシア工科大の院生さん)が井上雄彦(スラムダンク)の大FANだと。世界はいろんな糸でつながっている。

11-12月:なぜか原点帰りで、大谷幸夫先生の『空地の思想』を読む。空地とは、「地」面があって、「空」があるものだと。シンプルだが重みある言葉。どこまでも続く遠い「空」(=未来・夢・ビジョン)を見つめながら、しっかりと「地」(=基本・原点・地域・身の回り)を踏みしめて、来年も「空地の思想」を持って、少しずつ前に進んでいきたい。



URBAN DESIGN LAB. 2008



都市デザイン研究室の2008年を振り返る



中島助教、M2北村、山田、長澤
M1西川、六田(☆)
*...☆印が執筆担当者

鞆

「鞆雑誌2008」の出版を皮切りに始まった鞆PJ、今年は観光と生活・文化の視点から鞆を捉えるということを目指し、7月に駐車場の利用状況調査や店舗に関するヒアリングを行いました。この調査を踏まえ、夏の明け方の山田さんの一言から始まった『ヨル』の鞆にちょっと立ち『ヨル』をテーマにしたイベント「ヨルトモ」を中秋の名月のもとに行い、準備期間が短かったにもかかわらず多くの方から好評をいただきました。その他にも、8月に尾道市瀬戸田町で「潮待ち交叉展inせとだ」の実施、11月には北海道で行われた都市計画学会のセッションへの参加と、鞆以外での活動も充実した一年でした。



高山

野原助教、M2大道、
M1竹本、土信田、藤井(☆)

今年の高山PJは、伝建地区である越中街道の「伝統とは何か」「まちとはどうあるべきか」といった根本的な命題に真っ向から挑戦した一年でした。伝建制度という確立された制度の中で、まちの在り方を議論することは想像以上に難しく、度重なる議論や調査をしても、答えの見えない状況に幾度も戸惑いを覚えました。そんな中、「実行することが大切」という当PJの精神から、半間ルールの提案・モックアップ実験や「まちなみぎやらり」と称したパネル展示を成し遂げ、自分たちなりの答えを少しずつ整理してきました。まだ議論の余地はあるけれど、試行錯誤を繰り返して、真に住み良い越中街道の実現に向けて活動していきたいと思っています。年明け2月には越中街道の修景計画を作成する予定です。

	研究室全体 URBAN DESIGN LAB.	鞆 TOMO	高山 TAKAYAMA	浅草 ASAKUSA	八尾 YATSUO	喜多方 KITAKATA	新宿 SHINJUKU WS・コンペ WORKSHOP/COMPETITION	柏関連 UDCK	読書会 READING CLUB
1月	2.8,12 2007年度ジュリー		1.15-16 中間報告会 +現地調査	2.5 WS「通りの名付け」	3.9 八尾まちづくり シンポジウム2008	2.3 喜多方まちづくり シンポジウム			
2月	3.13 修士論文発表	3.14-16 展示会「港町交叉展 せとうちのまちづくり〜	3.2-3 最終報告会 +現地調査						
3月	3.24 修了式								
4月	窪田准教授就任 11 入学式 16 新入生歓迎会		14-15 山王祭+ 現地調査				新宿区景観 ガイドブック発刊	24-25 田村現地調査	
5月	26 4年生歓迎会				15-17 初の現地調査	12 現地見学	9 景観シンポジウム	27-30 田村現地調査	第1回「トポフィア」 イーフトゥアン 21 第2回「場所の現象学」 エドワードレルフ
6月	6 窪田准教授就任を 祝う会 24 マレーシア工科大学 との交流		27-30 現地調査		13-15 現地調査		6-7 公共政策 デザインコンペ		11 第3回「東京の空間人類学」 陣内秀信 23 第4回「鉄コン筋クリート」 松本大洋
7月	28-30 夏学期ジュリー	10-13 現地調査		28-29 観音まちづくり マップ完成	20 中間発表		31-2 WS 風景づくり夏の学校 @しまなみ海道	1-4 田村現地調査	8 第5回「東京の下層社会」 紀田順一郎 23 第6回「街並みの美学」 芦原義信 31 第7回「都市と日本人」 上田篤
8月		23 展示会「港町交叉展 inせとだ」 24 WS「ヨルトモ準備」	27-31 現地調査			8 「ぐるぎ+（ぶらす）」 実験店舗開店 22-23 クイズラリー 「夢見る蔵」	3-9 City Switch @出雲	4 UDCTオープン 4-8 田村現地調査	12 第8回「空間の日本文化」 オギュスタン・ベルク 21 第9回「郊外の社会学」 若林幹夫
9月	18-20 建築学会 @広島大学	13-14 WS「ヨルトモ」			9-12 現地調査		8 コンペ 瀬戸グランド キャニオン		8 第10回「逝きし世の面影」 渡辺京二
10月	20 バンコクフォーラム 交流会 21 新入生歓迎会 25-29 研究室旅行	8 都市計画学会 @北海道	9-10 展示会「まちぎやら」		9-13 足助祭 +現地調査			16-17 田村現地調査 Urban Design Studio (UDS) 開講	21 第11回「海の帝国」 白石隆
11月					14-15 現地調査 社会実験 (観光マップ、 パネル展示) 29-30	2 「ぐるぎ+」 実験店舗終了	21-24 WS 姫路シャレット 28 TEPCOインター カレッジデザイン 選手権	14-15 田村まちづくり実験 20 UDCK2周年 26 UDS中間講評会	4 第12回「夢と魅惑の全体主義」 井上章一 18 第13回「新・都市論TOKYO」 隈研吾、清野由美
12月	25 忘年会		19-22 中間報告 +現地調査	20 まち案内所実験				24 UDS最終講評会	2 第14回「失われた景観」 松原隆一郎 17 第15回「現代建築に関する16章」 五十嵐太郎



浅草

中島助教、M2北村(☆)、長澤、佐藤、
鈴木、M1ヨシミ

活動2年目となる浅草観音うらPJでは、まちでイベントが開催される時などを狙ってプロダクトをつくり、地元の方の関心を引きつける取り組みを行ってきました。3月には1年目の活動をまとめたまちづくりブックを作成、植木市1回目ではその内容をもとに展示パネルを作成、植木市2回目ではまちあるきマップを配布、そして12月は2.4m×4.2mの壁一面でまちの特徴を表現するなど、少ない人数ながら精力的に活動して参りました。浅草観音うらの凄いとこは、「何かやれば人が来る」ということです。植木市・西の市などの人出は凄く、それを活かしてまちづくり活動を頑張ればまちは変わる！そんな期待をメンバーも地域の方も持っています。来年度は、まち案内所の本格設など、より実践的な活動を増やしていければと思っています。



足助

窪田先生、M2蛸灰谷、鎌形、
平岡、ナツポン、
M1竹本、土信田(☆)、西川、六田

今年の5月に幕をあげた足助プロジェクトも振り返ってみれば、様々なことがありました。始動して間もない7月に、現状分析と課題を踏まえた中間発表を行い、11月には観光シーズンを狙った社会実験を成し遂げました。初めは漢字も読めないほどでしたが、この7ヶ月の活動を通して、今ではすっかり「アスケ通」となりました。7月以降、M2が引退したことで、人数は半分と少なくなりましたが、足助を街と川の大きな2つの視点で調査を行ってきました。それぞれの課題を議論しながら各自が異なる問題意識をもっているのがこのプロジェクトの特徴です。今後は3月の報告会に向けて各自が抱える課題をまとめ、プランにおとし、来年度以降はそのプランをもとに実践していく予定です。



佐原

窪田先生、M2蛸灰谷(☆)、鎌形、
鈴木、平岡、M1西川、研究生高橋
(+工学院の五十嵐さん)

窪田先生がデザ研に戻られたことで本格始動した佐原プロジェクト。今年は伝建内の歴史的建造物(空家)を実際に活用して可能性を探るといふ、他のPJとは異なるけども、まちづくりの現場をまさに味わうことができました。古着集めにご協力いただきありがとうございました！クイズラリーの時の子供たちのキラキラとした笑顔も、大祭のカッコイイ山車(正面から直接見るだけでなく、小野川の舟から見上げる山車も、店内から格子越しに覗く山車も、大変粋なものです)も、何より地元の方と直接触れ合えたことが印象に残っています。まだ、実験店舗来訪者の方々のアンケートなどをまとめる作業が残っています。私たちの活動が、佐原の町並みを守る次の展開につながればよいと思います。